

子規・漱石・極堂生誕 150 年記念

第 63 回特別企画展



子規・漱石・極堂
— 俳句革新の地 松山 —

平成 29 年 4 月 29 日 (土・祝) ~ 5 月 29 日 (月)

休館日：5 月 9 日・16 日・23 日 (いずれも火曜日)

開館時間：4 月 29 日・30 日は、午前 9 時~午後 5 時

(展示室入場は午後 4 時 30 分まで)

5 月 1 日からは、午前 9 時~午後 6 時

(展示室入場は午後 5 時 30 分まで)

松山市立子規記念博物館 3 階特別展示室

観覧料：個人 400 円 団体 320 円 65 歳以上 200 円 小中高校生 無料

特典/常設展とセットで特別企画展の観覧券を購入する場合、

特別企画展の観覧料は 2 割引・子規博友の会会員が特別企画展の観覧券を購入する場合、

特別企画展の観覧料は 2 割引

記念講演 演題：「散策集を読む」

講師：復本一郎氏 (神奈川大学名誉教授)

5 月 14 日 (日) 10:30 ~ 12:00

松山市立子規記念博物館 1 階視聴覚室 ※入場無料、定員約 100 名

館長講演 演題：「子規と漱石の五十二日—俳句革新論稿『俳諧大要』誕生秘話—」

講師：竹田美喜 (松山市立子規記念博物館館長)

5 月 20 日 (土) 10:00 ~ 11:30

松山市立子規記念博物館 1 階視聴覚室

※入場無料、定員約 100 名

学芸員によるギャラリートーク

5 月 3 日 (水・祝)、5 月 28 日 (日)

ともに 14:00 から 50 分程度

会場：3 階特別展示室 ※聴講には特別企画展の観覧券が必要



生誕 150 年
since 2017

— 松山から世界へ
そして未来へ —

子規・漱石・極堂―俳句革新の地松山―

平成二十九年は正岡子規・夏目漱石・柳原極堂の生誕一五〇年にあたります。子規は夏目漱石と柳原極堂の古くからの友人です。

明治二十八年に松山へ帰省した子規は、当時、愛媛県尋常中学校に赴任していた漱石の下宿先へ逗留し、そこに極堂が松山の俳句結社「松風会」の仲間と共に訪れ、子規に作句の指導を受けます。やがて漱石が松風会会員と俳句を作りはじめ、自らの俳号を「愚陀佛」とし、漱石の住まいは「愚陀佛庵」と呼ばれます。

子規はこの時期、作句指導と平行して俳論の集大成である『俳諧大要』を執筆しており、この『俳諧大要』の中で「俳句は文学の一部なり」という有名な俳句文学宣言をおこないました。

子規と漱石は、生涯にわたって数多くの書簡を送りあっています。漱石は子規によく俳句を送って添削を求めています。二人の書簡からは俳句の技法だけではなく、お互いの生活上の息遣いや、他の文芸ジャンルへの関心をうかがい知ることができます。また子規と漱石の交流について現代の我々が詳細に知ることができるのは、極堂の観察と記録によるところが大きいです。極堂の名著『友人子規』は子規の顕彰・研究上重要な一冊ですが、子規と漱石の友情を語るうえでも欠かせないものです。

今回の特別企画展では、子規とその同時代の文人、夏目漱石と柳原極堂の三人を生誕一五〇年を機に取り上げ、近年あたらしく収蔵された資料や彼らの日用品など、希少な資料を展示しつつ、彼らが近代俳句の礎を築いてゆく様子などについて紹介します。



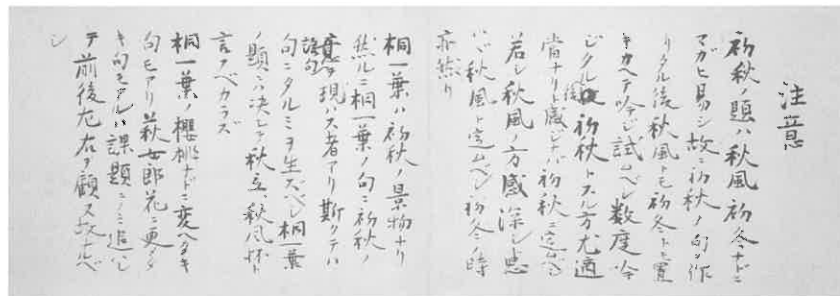
子規遺品 地球儀 (財)子規庵保存会 所蔵



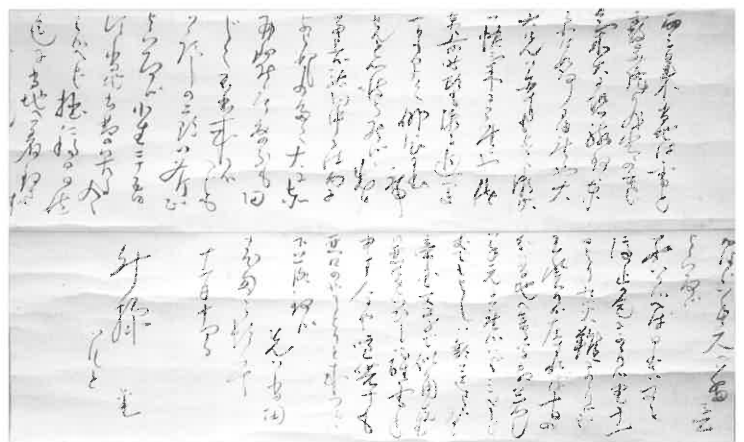
漱石遺品 銅四脚羊紐インク壺
県立神奈川近代文学館 所蔵



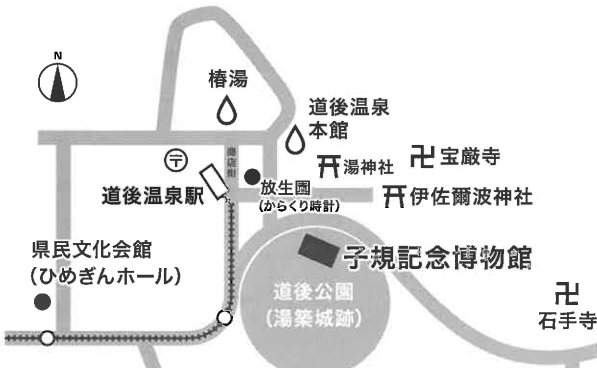
柳原極堂著「友人子規」



子規選句稿「ふるさと」 俳句初心者への基本的な注意を記している。



夏目漱石の子規あて書簡 明治28年12月14日 子規たちの句会に参加したいと記す。



道後温泉駅より徒歩約5分/道後公園駅より徒歩約5分
*公共の交通機関をなるべくご利用ください